

# 二条中通信

第 19号  
二条中学校  
H20.10.14  
文責：直江秀樹

\* 【学校教育目標】学ぶ楽しさを実感し、夢を持ち夢を実現するために努力する生徒の育成

## 文化祭1日目

秋晴れの10月9日(木) 二条中学校「文化祭」が開幕しました。1日目は本校講堂が会場です。午前、舞台発表。午後からは展示作品鑑賞です。文化委員長のM君が今年のスローガン「夢に向かって明日にきらめけ 天までひびけ二条の未来」を、みんなの力で実現しようとして力強く挨拶しました。(写真上) よいよプザーが鳴りました。



い

手話劇『水戸黄門』・・・手話劇としては初挑戦の時代劇。慣れない言葉づかいをするので一苦労だったでしょう。手作りの小道具・大道具は、劇を盛り上げるのに役立ちました。本格的な背景画は、雰囲気を出していましたね。迫真の演技は見ているものをつい引き込んでいました。役者のせりふを言葉と手話で演じるのは、練習もたいへんだったでしょう。悪代官と悪徳商人の陰謀を見事に見抜き、大立ち回りをした黄門さまご一行の痛快な振る舞いに会場も大喝采。ご存知のテーマ曲にあわせて楽しい舞台となりました。(写真右)



2年『オズの魔法使い』・・・企画・演出から生徒諸君が手がけ、積極的な演技で見るものを楽しませてくれました。しかし、練習のときはまだまだ声が小さく、正直どうなるか心配の声もあったようです。練習と本番はこんなに違うのかと思ったのが舞台裏。この日はとても暑く、舞台裏はただでさえ狭苦しいのに、人や道具類がいっぱい。おまけに暗くて周りが見にくい。それでも手際よく動いてくれて、キャストのみなさんが演技に集中できました。ドロシーはじめ、かかし・きこり・ライオンたちが捜し求めていたものは、この旅の中でつかみとりましたが、この劇にかかわった皆も忘れられない感激を得たでしょう。(写真左)



1年『ももたろう』・・・あまりにも有名なお話。(写真下)ところが、ただの「ももたろう」とは、ちょっと違います。台本に工夫を凝らして多くの見所が用意されました。うわさや人からの言い伝えでは本当のことは分かりません。「会うこと」の大切さをこの劇が教えてくれました。1年生は初めての文化祭です。この劇を最高のものにしようと、今の自分ができることだけに満足せず、最後まで成長し続けました。リハーサルではまだまだだったが、本番はがんばった。百点満点あげたいです。



3年『美女と野獣』・・・ベルの優しさと勇気が、野獣の心を変えていくストーリー展開。歌やダンスを取り入れて、工夫した舞台を作り上げました。中3の君たちには照れてしまいそうな台詞がありましたが、真剣に取り組んだ成果ははっきり現れていました。フィナーレのバレエは、何日も特訓をした甲斐がありました。大道具や小道具はあれやこれや考えた末に、いろんな材料を組み合わせでいいものができました。野獣の頭や馬の本体は気合が入ってました。最高学年として立派でした。

(写真右)



## 展示発表

- ・1年の学年展示は『サン・マルタン運河の眺め』(写真左)



シスレーの作品を貼り絵にしたもの。印象派の微妙な色使いを表現するのが難しかったと思

いますが、穏やかな光の明るさは十分出ていて力作でした。多くの方が、自分の担当箇所に責任を持って一生懸命に取り組んでくれました。隣接箇所の色あわせが大変だったでしょうが、放課後も残って時間を割いてくれた人たち。ご

苦労様でした。

- ・2年の学年展示は、『美女と野獣』

色の点の集積で形を作ったものである。一つ一つの点がとても丁寧に描かれていて、心地よいリズムが感じ取れました。(写真右)また、この絵の大きさには圧倒されました。それでいて、緻密な絵の仕上がりに感心しました。



- ・3年の学年展示は『大家族 マグリット』(写真下)

二条中学初めての試みで、つまようじを使った作品。一本一本に色がつけられたつまようじが、発泡スチロールに垂直に立てられ、約30,000本集まった絵



は、離れてみると「鳩」の形になり、角度を変えてみるとまた違った表情を見せてくれます。つまようじのそれぞれの高さの違いが、独特の深い味わいとなって、心を揺さぶられました。

・その他、各部活動や7組作品、教科の作品

など、力作ぞろいの展示会でした。午後からの数時間しか鑑賞できなかったため、保護者や地域の方から、「もっと時間がほしい」とのうれしい声がありました。今後検討していきたいと思

います。沢山の温かい拍手とご支援をいただきありがとうございました。

